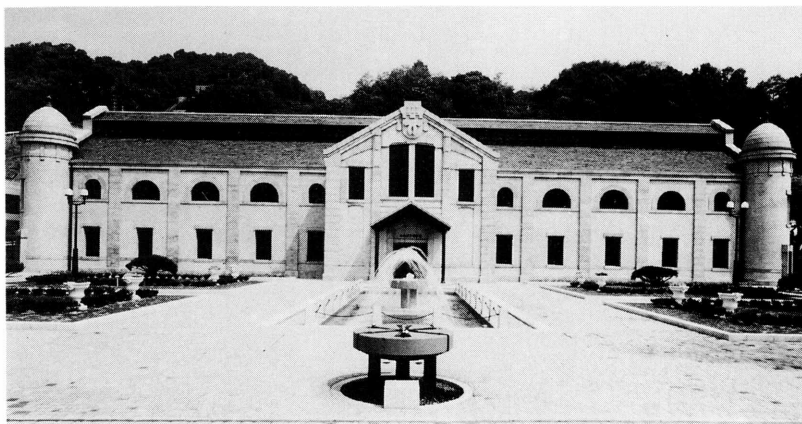


水の科学博物館

所在地 神戸市兵庫区
建物用途 博物館(現在)
浄水場(改修前)
竣工 1917年
改修 1989年
所有者 神戸市(水道局)
設計者 神戸市水道局技術部
施工者 (株)奥村組



〈審査評〉 水道浄水場の急速濾過場の上屋として、1917（大正6）年に建設されたこの建築は、神戸地方裁判所や国の重要文化財となっている小寺邸厩舎の設計者として著名な建築家河合浩蔵の手がけたものである。

ドイツ風の重厚であるが優美な外観を呈しており、日本建築学会からすぐれた建築物につき今後も大切に使用されるようにとの要望が寄せられ、また日本水道協会からも環境・景観的にも価値ある施設として「近代水道百選」の一つとして顕彰されていた。

神戸市は、以上のような経緯を踏まえ、また大正時代から人々に親しまれて来た施設として「構造耐力調査」の手続きを経て、1986年12月、「水道博物館」として保存活用することを決定した。

すぐれた建築文化遺産として、外観の保存につとめる一方、内部空間を展示スペースとして活用するために、構造上の補強も含め、内部に新たな構造骨組を設け、外壁と一体化し、設備スペース等は新たな増築棟を設けて対応している。

本施設の BRB 部門としての評価点は、永年経過の既存建物の不同沈下や外壁仕上材の損傷などに対して、細心の注意と技術をもって対処していることを、また活用面については、「開かれた水道施設・親しみのある水道」の一環として、市民生活に欠かせない水道を紹介する博物館として適切な活用がはかられている点である。更に、前庭が建築を美しく見せるように構成され、景観上調和したものになっていること及び公園としての有効な利用がはかられている点も評価された。

審査の中での批判的意見としては、内部展示空間に今一つ物足りなさを感じることに、特に、2階展示室の天井に既存の小屋組鉄骨トラスを生かすような工夫が出来なかったかと疑問が出された。展示空間は、限られたスペースでの制約があり、将来的には、本施設の立地をなす奥平野浄水場の全域的な将来計画をふまえ、更に拡張された展開が期待されるところである。

ともあれ、保存活用についての市の意欲的な姿勢、それに対する設計者、施工者の積極的な技術的対応は、BRB 部門にふさわしいものとして受賞が認められた。なお、この保存改修工事が、阪神大震災以前に行われたことの幸運を感じずにはいられない。